

好意的及び非好意的だけでない精神的・行動的 反応や態度を連想させる英語動詞群分析

ITO, Koichi / 伊藤, 幸一

(出版者 / Publisher)

法政大学教養部

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

法政大学教養部紀要. 外国語学・外国文学編 / 法政大学教養部紀要. 外国語学・外国文学編

(巻 / Volume)

95

(開始ページ / Start Page)

77

(終了ページ / End Page)

90

(発行年 / Year)

1996-02

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00005454>

好意的及び非好意的だけでない精神的・行動的 反応や態度を連想させる英語動詞群分析

伊 藤 幸 一

はじめに

「好意的及び非好意的関係・反応を連想させる英語動詞群の意味分析」では、「精神的变化を連想させる英語他動詞群の意味分析」での指摘を繰返し、後者は、その精神的变化を生じさせる側から、前者は、それを受けて反応する側から、共に、感情の意味場に関わり、快・不快という共通性を介しての逆方向への因果関係も含め、背腹の関係を認めた。

そして、後者は「精神的だけでなく物理的・行動的变化を連想させる一連の英語他動詞群分析」で、理解し難い内的世界だけでなく、どちらかと言えば、理解し易い視覚的側面にまで対象を分散・拡大、新たな解明を得た様に、前者も、本稿で、内面だけでなく、むしろ、その表面化に注目、やはり分散・拡大することで新たな展開を計る。

まずは、「五感他の精神生理的機能を連想させる英語動詞群の意味分析」での図式にのっとる。精神的变化を生じさせる刺激は、思考の世界よりも感情の世界に、より直接的に影響、喜怒哀楽を生じさせ、同時に、自律神経を介して、不随意筋だけでなく随意筋までも刺激、身体全体の、あるいは部分的な変調や表情として、即、『感情表出』する可能性がある。

その感情表出から、機嫌はもとより、本稿の核心、好意的なのか、非好意的なのか、つまり好き・嫌いも読み取れるが、いわゆる好き・嫌いは、気質・気性、更に趣味・趣向、美的感覚に価値感など、人格や人間性までも示し、どの様な『意志表示』があると、好き・嫌いの関係が成り立つのか、冒頭に掲げた分析と同様な視点から、分散・整理し直すことになる。

この好き・嫌いは、文字通りの人の触合いという、誰もが気付く『肉体表現』行動に縮約されないだろうか。然為れば「口・手・足から連想される英語

動詞群の意味分析」で、その背後に、あるいは延長線上に見え隠れするとされたスキンシップや、つまり肉体的接触や、肉体的衝突に関わる意味場が、期しくも、前面に出ることになる。

以上の様に、刺激を受けて反応する側から、「感情表出』『意志表示』『肉体表現』の順で考え、例句に、「動くことを連想させる英語動詞群の意味分析」で、延長線上に乗るだろうとされた、誇示すること、あるいは、その反対方向を向いている意味場を考えて、表題通りの『まとめ』とする。

感情表出⁽¹⁾

視・聴・嗅・味・触の五感のうち、視・聴覚の意義は言うまでもないが、皮膚感覚とも呼ばれる触覚の意義も、本稿では大きい。「刺激する」そして、それを「感じる」の、いわば表裏を一体とする「具体的な触覚を引き起こす」意の動詞があったり、物理的・肉体的刺激を、比喩だけでなく、直截、精神的刺激とする動詞があったり⁽²⁾、皮膚感覚以外をも「肌で感じ」取るのである。

《喜怒哀楽》 精神的变化を生じ「させる」刺激を感じると、飽くまで、当人の問題なのではあるが、精神的变化が生じ「させられ」、結果、精神的变化が生じ「る」ことになる。前者は、精神的变化に関わる他律詞群の受動態が、後者は、喜怒哀楽に関わる自律詞群の能動態が任う。と、この自律詞群は、大勢を占める他律詞群の補完をしているのだろうか。

しかし、これらには、自律詞としても、他律詞としても機能し、表裏一体をなすものがある。表裏といっても、手の甲と掌の様に、背腹に近いと見ると⁽³⁾、この自律詞群は、好き・嫌いの意味場への繋ぎをしている様にも思える。否、感情の世界に隣接する思考の世界への繋ぎではないのか。

《変調》 精神的刺激は、喜怒哀楽を生じさせると共に、自律神経に影響、これもまた、当人の問題なのであるが、身体全体に変調を来たし、表情として表出する。運動生理的にも、つまり身体運動や気温変化によっても起きることで、識別する必要はある。まずは血流に、結果、呼吸に、更には腹具合に、そして後々、疲労、ストレスへとつながって行く⁽⁴⁾。

刺激の程度や質によっては身体内変化に関わる不随意筋だけでなく、身体全体を支える随意筋にまで変調が及び、まずは緊張することで、手足が震え、膝がガクガク、「めまい」がして、極端な場合は、気絶することもある。

《表情》 ここまでは身体全体に及ぶ、むしろ否定的な変調表情で、本人も抑え様とするが、部分的な、特に首より上では、隠し様もなく、ときに、意志伝達的であり、動物としての名残りではないかと思わせるものもある。

代表的な表情と言えば、かなり自由に動き、動かせる目元や口元が豊かな「泣き笑い」顔を作るが、ときに付随する泣き声、笑い声は、興奮した時に発する動物的な叫び声や唸り声と共に、声の《表情》としても扱えるか。突作に出る条件反射的行動も含め、あの瞬間の、あの表情や仕種は、真実を語っていることが多く、後々、話題となることがある。

意志表示⁽⁶⁾

以上の『感情表出』から、機嫌はもとより、好意的及び非好意的関係も十分に読み取れるが、余りに個別的過ぎるので、快い感情表出には、快い、つまり好意的関係が介在、不快も、それに同じ、とここでは指摘しておいて、いわゆる好き・嫌いは理屈ではないのだが、その個別的過ぎる体験が誘発、萌芽させ、成長させるもので、意志表示であると考え、分析を進める。

《好意的》 一般的に、気に入って好きなのは LIKE, より強く、愛するのは LOVE, 何でも良いのではなく、選択が行なわれているということでは CHOOSE である。他より、より好きなのは PREFER, より品質にするのは FAVOR である。選択するのではなく理想を望むのは WANT で、切望する CRAVE, LONG, YEARN も挙げておこう。出来れば、と要望するのは DESIRE, 希望するのは WISH, 更に、HOPE と、欲求度は下がるか。

何故、好意的になるのだろうか。「素晴らしい」と評価を高めてで APPRECIATE が適用されるが、過大評価する OVERESTIMATE, -RATE の場合もあり得る。賞賛する ADMIRE, ESTEEM, 敬愛・礼賛する ADORE, PRAISE も加えられ得る。当然、大切にすることになり、その価値を強調して VALUE, 宝物として TREASURE, 賞に値する程に PRIZE, 名誉や栄光を与える程に HONOR, GLORIFY が適用される。

特に「秀でている」として評価し尊重するのは REGARD で、尊敬するのは RESPECT, 敬愛するのは REVERENCE, VENERATE, 崇拝する程なら REVERE で、礼拝する程ならば WORSHIP であろう。神格化するのは DEIFY で、神聖なものとして崇めるのは CONSECRATE, HALLOW

で、徐々に世俗を離れて行く。

宗教的に信じる BELIEVE は、より一般的にも適用されて、好意的関係の出発点であり、究極でもある。「素晴らしい」よりも、むしろ「正しい」であろう。そこで、信用する (EN)TRUST, CREDIT が挙げられる。そして、信用して、「頼る」ことでは RELY, DEPEND が、更に、「従う」ということでは FOLLOW, OBEY が追記され得る。

まず、発言や行動に関して、「正しい」と判断すれば、同意する AGREE, ASSENT が、更に CONSENT が適用される。応じるということでは COMPLY, ACCEDE であり、APPROVE, COMMEND は、推賞する迄も意味する。容認するのは ACCEPT, 承認するのは GRANT, その存続をも許すのは PERMIT, ALLOW である。

それを、周囲から疑問視され、否定された場合は、どうするのであろうか。弁護する ADVOCATE, DEFEND が適用されることになる。保護するのは PROTECT, GUARD, 支持し、維持するのは SUPPORT, MAINTAIN, 更に SUSTAIN も加えられ得る。ときには、結果が、はっきりと現われても、見過ごすのが OVERLOOK, 悪事などを、大目に見るのは CONNIVE, 罪ならば CONDONE である。軽い過失などを、許すのは EXCUSE, 重大なものならば FORGIVE, 無罪放免するのは ACQUIT である。

【非好意的】 好意的とは、当然、対立をなし、関わる単語のいくつかにも対立を見て取れるが、むしろ単語群同士、つまり下位範疇同士の対立を見ながら考察して行くことにする。

一般的に、気に入らず嫌いなのは DISLIKE で、更により強く、憎悪するのは HATE であるが、むしろ理性的には DETEST, 感情的には ABHOR, 生理的には LOATHE であろう。選択的に、忌み嫌うということでは ABOMINATE, EXECRATE も適用され、疎外する DISFAVOR も加えざるを得ない。望むはずもなく、回避するのは AVOID, より積極的になら EVADE である。

何故、非好意的になるのか、と問われれば、評価を下げてであり、それも過度の場合が多く、UNDERESTIMATE, -RATE, BELITTLE が適用される。賞賛するわけもなく、見下す DEPRECIATE, DISPARAGE も加えられ得る。当然、大切にせず、蔑ろにする IGNORE, 等閑にする NEGLECT, 軽んじる SLIGHT が適用される。

特に「秀でている」という高い評価はなく、尊重せず DISREGARD が適用される。尊敬せず、貶むのは SCORN, 特に、嫌ってなら DESPISE, 価値なしとしてなら DISDAIN, 更に、嘲るのは DERIDE, RIDICULE, 嘲笑する程なら SCOFF, 冷笑する程なら SNEER である。好意的ならば神聖視するものを、冒瀆することになり PROFANE, DEFILE, DESECRATE が適用される。

恐らく、理解出来ないとか、怪しいとか、言うのであろうが、信じていないのが DISBELIEVE, -TRUST, -CREDIT である。疑い出したら、もう、お仕舞である。疑うのは DOUBT, 半信半疑は SUSPECT である。頼りにならないし、就いて行けない。見捨てるのは DESERT, FORSAKE, 逃げ出すのは FLEE であり、縁を切るということでは REPUDIATE も追記しておこう。

発言や行動に関して、「正しい」と判断出来なければ、異議を唱える DISAGREE, DISSENT が、更に DISAPPROVE が適用される。応じず、反対するということになれば、嫌っての OBJECT, 邪魔しての OPPOSE が挙げられ、DENY は否定するまでも意味する。拒絶・否認するのは REFUSE で、より強くは REJECT, より丁重には DECLINE で、その存続を許さず、阻止するのは HINDER, IMPEDE, INTERRUPT であろうか。

そして、周囲に加え、自分の中でも、疑問・否定の声が大きくなった場合は、どうするのであろうか。抗議する PROTEST, 抵抗する RESIST が適用される。非難するのは BLAME, DENOUNCE, 更に、告発する意まで持つ ACCUSE も加えておこう。ときに、結果が現われ出ると、禁ずることになり、私的になら FORBID, 公的になら PROHIBIT である。更に、締め出し、排除するのは EXCLUDE, REMOVE で、追放するのは BANISH である。非好意的関係は、縁が切れれば話題とするには及ばない。

肉 体 表 現

ここまで記した好き・嫌いの多くは、ただ、その感情を持っているだけなら、精神的反応や態度として、回りに気付かれない場合もあり得る。しかし、喜怒哀楽が、いかに個別的であれ、表情や仕種に見て取れる様に、好き・嫌いも、どこかに見て取れないものであろうか。好きなものには、顔を緩ませ、近

づきたがるし、嫌いなものには近づきたがらないだろう、という誰でもが見て取れる本能的、否、自律神経のなす行動的反応や態度に、それも人に関して、つまり触合いに確認されないだろうか⁶⁰。

《親愛》 精神的触合いは「信じる」ことにあり、というならば、行動的触合いは「挨拶」にあり⁶¹、でも、まずは知合いでなければならない。その様を見るべく、様々な人が一堂に会したパーティを想定してみよう。

見知らぬ2人、それも、お互いに気になる男と女は、馴れ馴れしく触れる PAW は言うまでもなく、性急に近づいて話し掛ける ACCOST は、淫らに言い寄る MOLEST として、特に男性には御法度、まずは *eye contact* からである⁶²。気付かない旧知の人を気付かせるためには、掌で肩や背中を軽く叩く TAP, PAT, SLAP に、指で突つく POKE, 肘で突つく NUDGE が挙げられる。

ともあれ、正式には握手からであろう。お互いに、しっかり掌を握ることを強調すれば CLASP, 後半の揺することを強調すれば SHAKE である。腕相撲をする時の様に、肘を立てて、もあるが、その際、掌を叩くだけの変形は CLAP であろうか。その後は、愛情込めて抱き締める HUG で、両腕で囲んでいることを強調すれば EMBRACE, それが、錠前や留め金を連想させて LOCK, CLASP, 否、保つ、包むというなら HOLD, (EN)FOLD で、強い力が加わっていることを強調すれば SQUEEZE, PRESS, STRAIN である。更に、仕上げは、唇による KISS である。音ばかりの SMACK や、軽く突く様な PECK, 触れることを誇張する OSCULATE もある。

投げキスが手元から放たれる様に、離れた人には手を振る WAVE, 片目を瞑る WINK, 更に、軽く帽子を持ち上げる TIP の他、会釈する NOD がある。深く御辞儀をする BOW には敬意が込められる。女性が、頭をヒョットと沈めて会釈する BOB は、膝をヒョットと曲げての CURTSY も意味する。大凡、男性が額に掌を翳し敬礼する SALUTE は、一般的に挨拶する GREET の意もあり、フェンシングの試合での礼も連想させる。更に、高貴な人を祝福してか、謁見式で、祈る時の様に跪くのは KNEEL である。

祝福するのでも⁶³、式典をしては CELEBRATE, 何かを記念しては COMMEMORATE, 「でかした」ということでは CONGRATULATE である。それに値する人物を持ち上げ、担ぎ回るのは CHAIR, そして皆、歓迎するのは WELCOME, 歓呼するのは HAIL, 歓声を挙げての ACCLAIM, 拍手喝

采しての APPLAUD も適用される。むしろ、声援するのは CHEER であろうか。ときに軽口で「ひやかす」のは BANTER, CHAFF である。健康を祝して乾杯するのは TOAST である。

酒を酌み交し付合うのは HOBNOB, パーティが終る頃には、それまで知らなかった人同士も、打解け近付きになり COTTON が適用される。男性が女性を ESCORT, 更に SQUIRE も加えられ得るが、高貴な人と従者をも連想させる。新たに知合いになった人同士が、後日、親しく付合う様になることは良くある。ASSOCIATE である。

先の気になる男女も、ひょっとしてデートの約束をして、デートをしているかもしれない。それぞれ TRYST, DATE であるが、男性が、伊達男よろしく、女性に言い寄るのは GALLANT, 仲良く交際しながらは COURT, 更に WOO も加えておこう。そんな風に異性と戯れるのは DALLY, 男性を強調すると PHILANDER, 女性を強調すると FLIRT である。

その恋人同士の戯れを、ちょっと覗いてみよう。機嫌を取って、顎の下を撫でるのは CHUCK, 身体に凭れ掛かるのは RECLINE, LEAN, 頭や身体を擦り寄せるのは BURROW, 強く身体をくっつけるのは CLING, 激しく抱き締め、キスするのは CLINCH である。首に抱きつく NECK, 愛撫する PET は、キスすることも含み、いちゃつく SMOOCH を意味する。

窺れる程、恋焦がれるのは PINE で、周囲が許さず、駆落ちするのは ELOPE であるが、女性が強調される。それならば、と誰かが、縁組させることになれば ALLY, 婚約させるのは ENGAGE, そして、結婚させ、結婚するのは MARRY, WED である。その前に、異性と遊び回るのは GALLIVANT で、女性が、男性の恋人を捨てるのは JILT, それは、2人を仲違いさせることになり ESTRANGE が適用されるか。

話を戻して、母子揃ってのパーティを考えてみよう。幼児達は駆け回り、はしゃぎ回り、FRISK, FROLIC, ROLLICK, ROMP, GAMBOL, SCAMPER, CAPER が適用されるか。お互いに物心がつく前には、何の銜いもなく、直ぐに知合いになり、有りったけのスキンシップをするが¹⁰⁾、その内、喧嘩を始め、誰かが泣き出す。

その泣き虫が、見守る母親に甘えて、鼻を押付けるのは MUZZLE, じゃれつくのは FAWN である。母親の方も愛しくなって、撫で回し、抱き締めるのが FONDLE で、更に、掌でやさしく叩いたり、キスすることも含むのが

CARESS である。抱き上げ、上下に揺すって「あやす」のは DANCE, 撫でることも加わると DANDLE, 揺り籠の様になら CRADLE, ROCK でもある。更に、寄り添うのは SNUG, でも、寛いで横になっているか。巣の中の鳥の様になら NESTLE で、抱き締める意を持つ SNUGGLE も、横になって寄り添うことを暗示, CUDDLE には、更に、添い寝する意も加わる。

そして、乳幼児が泣いていれば、お乳を飲ませる SUCKLE が適用される。この際、ついでながら、愛情一杯の家庭での子育ても考えざるを得ないか。何かに付け、滋しむ CHERISH, 育む FOSTER が適用される。食物を食べさせるのは FEED, 養うのは REAR, 育てるのは BREED である。それぞれに NOURISH, NURSE, NURTURE も対応するか。子供以外の家族も含めて、傍に居て気を付ける ATTEND あり、世話をする CARE あり、押し並べて SERVE が適用されるか。

ペットや庭の植木や草花にも、これらは妥当するが、特に、ペットに関しては、単に触れる以上の意を持つ TOUCH に、FIDDLE, HANDLE も加えておこう。それよりも、既出の PET は、ここに優先されるべきであろう。趣味の話を続けると、家族の慰安か、お祝いのためか、パーティを開いたり、物見遊山に出掛けるのは JUNKET で、ときには、親しい人を INVITE, 色々と「もてなす」のは FEAST, REGALE, ENTERTAIN である。

事程左様に、家族を含め、好意的関係を持つ仲間に対して、報いるのは RECIPROCALTE, REQUITE である⁹³⁾。ときに、困っていれば、助言する ADVISE, 手助けする HELP, 解放する EXTRICATE も適用される。上手く行かなければ、宥め、慰め、元気づけて、同情し哀れむ COMMISERATE, 気の毒に思う PITY, 更に、嘆き悲しむ BEWAIL, -MOAN, 悔みを言う CONDOLE も適用される。

そこで、幸せをくれた子供には、その親が、幸せを返そうとしてか、溺愛するのが DOTE である。一方、甘やかす SPOIL は、子供を駄目にするのを知って、余計な世話をやくのは MEDDLE である。そして、何かに付け、ガミガミ小言を言うのは SCOLD, NAG, (BE)RATE である。

いくら言っても聞かない子を、懲らしめるべく折檻するのは, CHASTISE や、鍛える意を持つ CHASTEN で、襟首を掴まえるのは COLLAR, そして、お尻を叩くのは SPANK, カンパの枝鞭で打つのは BIRCH, 酷く殴るのは TROUNCE である。ボクシングで、めった打ちする PUNISH も懲らす

意を持つ。度を越さない様に誰かが、窘める REPROVE, 諭す ADMONISH, 諫める EXPOSTULATE の必要があるだろうか。繰返されると、反抗期の子供なら、憎悪を抱き反感を持つ REVOLT, 反発し反逆する REBEL が適用され、非好意的関係に突入するかもしれない。

《敵意》 既に、恋人同士、子供達、親子間での非好意的関係には、僅かながら言及したが、ここで問題とするのは、理解を促すべく、その非好意的関係を我慢する内に、憎悪が募る場合や、何らかの理由で、報復したいと敵意を募らせている極端な場合である。仕返しするのは RETALIATE, 特に、正義に基づいてなら AVENGE, 私憤でなら REVENGE である。

当然、会っても挨拶もしないし、祝福すべき時でも苦々しく思い、その逆に、相手が困っていたり、上手く行かない時には喜び、とにかく、追出しを意図する様な行動を取る⁽¹²⁾。不幸になる様に呪う CURSE, DAMN は罵る意も持つが、罵倒するのは REVILE, INVEIGH, VITUPERATE である。相手の動作などを真似て、からかうのは MOCK, 更に、嘲るのは、ひとつだけ挙げれば TAUNT で⁽¹³⁾、愚弄するのは GIBE である。機会があれば、野次の HOOT も適用されるか。そして、あら探し、揚げ足を取ってが FAULT で、一応、理屈をつけてが CAVIL, 筋違いは CARP である。更に、中傷するのは SLANDER, DEFAME, LIBEL であるが、ときには名誉毀損になる程である。

これが繰返されると、相手も黙っていられず立向かう。すなわち、逆襲するのであり、ボクシングを連想させる COUNTER が適用される。遣り返すのは RETORT, 非難し返すのは RECRIMINATE で、はっきりと敵対し、相手に敵意を抱かす ANTAGONIZE や、事を紛糾させる EMBROIL が適用されることになる。論理を必要とする程ではないが、論駁するのは、ひとつだけ CONTROVERT を挙げておこう⁽¹⁴⁾。つまらない事で言争うのは BICKER で、SQUABBLE は、口だけでない、下らない喧嘩も意味する。

それでも、直ぐには、手を出さない。しかし、何時しか、どちらかが業を煮やし、邪魔が入らない様な場所と時を選んで、待ち伏せるのは AMBUSH である。急襲する RAID が、BLITZ が、上からを強調すると DESCEND が適用されるか。荒々しく突進するのは RAMPAGE, 襲い掛かるのは SWOOP, POUNCE である。攻撃するにしても、敵意を以ては ATTACK, 激しさを以ては ASSAULT, 執拗さを強調すると ASSAIL である。

まず⁽¹⁵⁾、掴み合うのは GRAPPLE, SCUFFLE, 殴り合うことも含めると SCRIMMAGE で、ラグビーのスクラムを連想させるついでに、組み伏せる TACKLE も挙げておこう。組合うのは WRESTLE で、プロレスとの連想で、羽交締めする PINION, 頭突きする BUTT, 頭を叩く CONK, 反則技で、咬みつく SNAP, 喉を締める THROTTLE を挙げておこう。更に、足を掬って、ひっくり返すのは TRIP, 肘で押すのは JOSTLE, 揺するのは JOG(GLE) である。平手か拳で殴るのは CUFF である。

いわゆる「びんた」するのは BOX でもあるが、当然、拳でのボクシングを連想させる。ついでながら、その拳を強調するのは KNUCKLE であり、あの仕種を強調するのは SPAR である。ジャブを食らわすのは JAB, 強打するのは SLOG, そして、フラフラにする JOLT は揺さぶる意も持つ。クリンチ中に横殴りするの CHOP である。

そして、とにかく、何であれ、打つ、殴るは HIT, STRIKE, 軽く叩くのは DAB, 強く打つのは SOCK, SMASH, それも大振りするのは SWIPE, 結果、横殴りするの SIDESWIPE, そんなこんなで、めった打ちするのは CLOBBER である。以上纏めて、打ちのめすのは BUFFET, LAMBASTE, WALLOP, それも傷つける程だと BASH, 叩き伏せる程だと PROSTRATE である。

一方、素早く強く叩くことで音を連想させるのは KNOCK, WHOP, 更に WHACK も挙げておこう⁽¹⁶⁾。既に暗示されている棒など、を振り回すのは BRANDISH, 巧みに使うなら WIELD である。細い杖状のもので打つならば BASTE, 太いバット状では BAT, 棍棒状では CLUB, はっきりと棍棒では BLUDGEON, CUDGEL である。因みに、鞭の場合を含むのが DRUB であろうか。鞭を、はっきりと連想させるのは WHIP, LASH で、FLOG, SCOURGE は体罰を連想させる。同じく、穀竿でなら THRASH である。更にナイフや刀剣、槍や箆、弓矢に銃を持ち出したら、下らない喧嘩である、とは言ってられない。

最早、軽傷では済まない。打ち傷をつけるのは MAUL, CONTUSE, 切り裂くのは LACERATE, 加えて骨折までさせることになるのは BREAK, 脱臼させるのは DISLOCATE である。手足、特に足を不自由にさせるのは CRIPPLE, LAME で、更なる損傷を暗示するのが MAIM である。危険に晒すのは RISK, ENDANGER, JEOPARDIZE である。

こんな風に、どこに行き着くのか分からない暴力沙汰を避け、賢くも、その前に、素手による殴り合いを約束して、遺恨を晴らす決闘もあり得る。そこまで思慮が働くのならば、穏便に事を済ませるべく、誰かが両者を懐柔する CONCILIATE も、更にあり得る。そして、喧嘩や素手の決闘の代替に、スポーツの試合で決着をつけることになる可能性も出て来る⁽¹⁷⁾。仲裁するのは ARBITRATE, 両者の中に入ることを強調するのは INTERPOSE, その位置が中間であることを強調するのは MEDIATE である。

本能的とまで言われる闘争心や敵愾心は、競争心、対抗心に転換され得るのだろうか。一般的に争うのは FIGHT, 敵意を以て戦うのは BATTLE, それも衝突する意が強ければ CONFLICT, 敵意よりも対抗意識を以て競うのは COMPETE, CONTEND で、一定の目標に向ってなら CONTEST である。RACE は競走する意である。

好き・嫌いの仕合いが、スポーツの試合の勝ち・負けに転換され昇華するのであろうか。その経緯は別として、一般的に勝つのは WIN であるが、手に入れることも意味し、CONQUER, VANQUISH も加えられ得る。圧倒するのは OVERCOME, 凌駕するのは SURPASS, EXCEED, EXCEL である。接頭辞 OUT- は、より勝れていることに、屢、適用される。上にあることを強調するのは SURMOUNT, 下に服従させるのは SUBDUCE, 打負かすのは DISCOMFIT である。一方、負けてしまって失うのは LOSE, 屈服するのは SUCCUMB, 降参して譲るのは SURRENDER である。

勝敗が決して、お互いに、すっきりすれば良いが、非好意的関係に代って、上下の関係が成り立つことになるのだろうか。否、今迄の経緯から見て、両者、クタクタになって、引分ける DRAW か。そして、ときには、殴り合いの喧嘩も含め、全身全霊での、ぶつかり合いには、触合い以上の交流があり、ドラマの様に、真の友情が芽生えることもあるか。然すれば《親愛》関係が成り立つことになる。

ところで、勝敗をどの様に考えるかが問題とはならないだろうか。元々、暴力に訴える気はないが負けず嫌いで、非好意的関係を競争に転嫁、何事によらず、密かに、露骨に、相手を負かそうとする人もいる。また、親友同士が対等でありたいと望み、対抗意識を以て、その証しとする人もいる。両者の違いはどこにあるのだろうか。相手を模範として見習う他、負けまいとして張合うのは EMULATE, 加えて、同じ目標で競い合うのは RIVAL であるが、共に、比

肩する意も持つ。これとても優劣が付き物、やはり好き・嫌いだけで、行きたいと思う人がいることを追記しておこう。

ま と め

もし、そうでありたいと思っても、人は、好き・嫌いだけで行動していけるだろうか。考えてみれば、お互いに、好き・嫌いがあり、その儘だと衝突、非好意的関係に陥ることが分かり、遠慮が働かないだろう。

主張する、つまり何かを要求するのは ASSERT, CLAIM で、固執するのは INSIST, PERSIST, 物理的に、くっつく ADHERE, CLING も適用される。その考えを捨てるのは WAIVE だが、一般的には ABANDON, 宣言してなら DENOUNCE, 断念するなら RELINQUISH, 自制するなら ABNEGATE である。自分から CONTROL, 抑制するのは WITHHOLD, FORBEAR, 慎しむのは REFRAIN, 控えるのは ABSTAIN である。つまり、相手を敬って譲歩する DEFER は勿論、むしろ委せる YIELD, CONCEDE に加え、妥協する COMPROMISE が求められる。

嫌な事に対しても、感情を燃え立たせ怒る BLAZE, 明示する EVINCE, 大袈裟にする EMOTE は控え、文字通り、露骨に、肘鉄を食わず REBUFF, 鼻であしらう SNIFF, SNORT, SNUB, 更に、唾を吐く SPIT も慎しむべきか。むしろ、大目に見る BROOK, TOLERATE, 飲み込む DIGEST, 持ち続ける BEAR, 立ち続ける STAND, 止どまる ABIDE, つまりは、耐える ENDURE が求められる。ときには、軽くあしらう BRUSH, 鋒先を逸らす PARRY, 受け流す FEND と共に、おどけて、馬鹿を遣る CLOWN, 冗談を言う JEST も必要であろう。

それでも、どうしても譲れないことがある。お互いに好き・嫌いのある競争社会では、好き・嫌いで始めたことが、いつの間にか、勝ち・負けに擦り替えられるか。まずは、頑張り通す PERSEVERE が重要で、上手く対処する COPE, 誤魔化しも暗示する MANIPULATE と共に、機先を制する FORBSTALL, 裏をかく OUTSMART, -WIT, CIRCUMVENT も、勝負に拘れば必要となるか。更に、鉄面皮で遣り通す BRAZEN や、不当な要求をする ARROGATE, 機嫌を取る JOLLY, そして、取り入る INGRATIATE も、心ならずも実行せざるを得ないか。勝負に賭けているならば、許されるこ

と、装うのは PRETEND, それも本心を隠してなら DISSEMBLE, 偽装する程なら DISGUISE, 偽造する程なら COUNTERFEIT, そして、巧みにが FEIGN で、直ぐに、ばれる程は SHAM である。

ところで、いざ勝負となった時に、優劣や、勝敗に対して自意識過剰となって、自律神経が身体を動けなくさせることがある⁽¹⁸⁾。尻込みする JIB, SHY は動物を連想させ、後退りすることも意味する。バネを連想させる RECOIL を加えておこう。恐怖心や恥かしさで、竦むのは COWER, FLINCH, ひるむのは QUAIL, WINCE で、物が縮む SHRINK, 特に、植物を連想させる WITHER も適用される。身体や頭がフラフラする WOBBLE, WAVER, FALTER は、躊躇する HESITATE に通じ、これでは勝負にならない。

また、軽く動けても、やはり自意識過剰で、自律神経のなす業か、相手の機嫌を取る人もいる。自分を守ろうとしてか、取り入ろうとしてか、誉め称える EXTOL, EXALT には何かがある様に思われる。単に挨拶する意でもある COMPLIMENT も、お世辞を言う FLATTER の意を持つ。へつらうのは ADULATE, 涎を垂らしてまで、おべっかを使うのは SLAVER, 素直に言うことを聞くことでは TRUCKLE である。軽く動け過ぎ、言われれば蛙も食べれば、靴も舐める程は TOADY, BOOTLICK であり、(SOFT)SOAP, BUTTER も加えておこう。ときには、上手く取り入ることが出来るか。

更に、相手ではなくて、自分を何かと誉める人もいる。これも自律神経のなす業か、心地良いのであろう。自慢するのは BOAST, それも法螺を吹く程だと BRAG である。紋章の様に誇示するのは BLAZON, 見せびらかしてなら FLAUNT, 大言壮語でなら VAUNT である。勝ち誇る TRIUMPH, 歓喜する EXULT, GLORY も、この仲間として加えておこう。そして、踏反り返って歩くのは SWAGGER, SWASH, 気取ってなら SWANK である。この程度なら、然程、他人迷惑ではないが、威張り始めると困り物、虚勢でなら BLUFF, 大声で怒鳴っては BLUSTER である。本人が優越感のつもりで威張り散らし、弱い者いじめをするのは BULLY, HECTOR であり、そんなこんなで独裁的に支配するのは DOMINEER である。

一方、自信を持ってなのか、謙虚に遜るのは CONDESCEND であるが、恩着せがましく、見下す意も持つことを追記しておく。自負する PRIDE も誇りが優越感になり、高慢になる程までに、転回する可能性がある。また、人を羨ましく思う ENVY も、素直で、なら良いが、ときに、妬む、嫉むことで

(BE)GRUDGE へと変化することもあり、ふと、気付いて、惨めな思いをすることになるか。どれも理性では抑えきれない自意識過剰な、自律神経が覚えさせた、否、条件反射によって得た習性であろうか。

《注》

- (1) 『はじめに』述べた様に「五感他の」と重複するので、略述するが、補足も加えておく。
- (2) 『はじめに』記した「精神的变化だけでなく」における、『物理的变化』のうち《肉体》を見られたい。
- (3) 味覚に関しての「あまい・からい」「うまい・まずい」「好き・嫌い」のレベル、あるいは側面と対比されたい。この後の「繋ぎ」発言は興味津々。
- (4) 精神と肉体が、いかに直結しているか、形容詞 psychosomatic が表わす。
- (5) 『はじめに』述べた様に「好意的及び非好意的関係・反応を」と重複するが、補充も加え、分散・整理し直す。
- (6) 『はじめに』述べた様に「口・手・足から」の『まとめ』において《攻撃》《愛撫》《挨拶》《養育》の順で指摘された意味場が、ここに組込まれる。
- (7) 言葉を掛けることの重要性は言うまでもないが、ここでは不問に付す。
- (8) 視線行動は「LOOK と SEE を焦点とした語彙場の意味と分析」が詳しい。
- (9) この部分を含め、その前までに記した《親愛》の情を示す挨拶は、スポーツ観戦中において、良く見掛けることである。
- (10) もっと前に《注》を付けるべきであったかも知れないが、基本的な動きに関しては、『はじめに』記した「口・手・足から」動くことを更に「動かすこと及び物理的变化を連想させる英語動詞群の意味分析」が詳しいので省略する。
- (11) 『はじめに』述べた、逆の因果関係である。
- (12) 逆の因果関係ではあるが、憎悪が敵意に、そして、追出そうとすることに、どの様にして結びついていくのであろうか。また、注(11)とも対比されたい。
- (13) 本稿の「意志表示」に類似表現あり、参照されたい。
- (14) 言語行動に関しては別途に考察した方が良く、というふうともあるが、余りにも類似表現が多いので、ここでは省略する。
- (15) 基本的な動きに関しては省略する。注(10)を参照されたい。
- (16) 「音を連想させる英語動詞群の意味分析」の「物理的」も参照されたい。
- (17) スポーツは、ときに問題を引き起こす有り余ったエネルギーの代謝に寄与するばかりでなく、既に、注(9)に記した程に、折に触れ、挨拶させることで、人との触れ合いをも学ばせるが、「肉体表現」全体に渡っての、具体的スポーツ名の散在は、何を物語っているのであろうか。
- (18) これ以降は、『はじめに』記した様に「動くことを」で僅かながら指摘したことであるが、本稿における「感情表出」と一部重複する、否、そこで言及して然るべきことかも知れない。